

滋賀県平和祈念館

語りつぐ平和への願い

平和の燈(ともしび)

戦没者遺族が県内各地で集めた火、地元の東近江市愛東地域の子供たちがおこした火、これらの平和の願いがこめられた火を集めて、「平和の燈」として館内でともしめています。

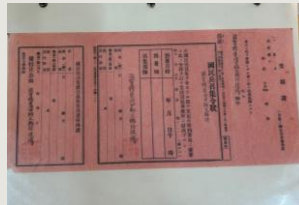
滋賀県平和祈念館は東近江市にある県民の戦争体験を語り継ぐための資料館だ。基本展示室に進むと、床には琵琶湖を中心とする滋賀県の衛星写真が描かれている。その衛星写真には、県内の戦跡の所在する場所がいたるところに記されており、こんなに身近に戦争関連のスポットがあったのかと思い知らされる。館内には、約30年間に渡って、県民から収集した戦時中の品約6万点のうち、その一部が展示されている。

県民の戦争体験を身近に

今回、わたしたちは学芸員の日高さんに館内をご案内いただいた。沖縄で生まれ育ち、昔から戦争体験を伝えていく必要があると考えていた日高さん。その情熱的な説明に、私たちも胸が熱くなった。「男性に届いた徴兵検査の通知や赤紙、金属類回収令により陶器で作られた生活用品等、ここは軍事品よりも生活用品が多く展示されています。訪れた人には、戦争の悲惨さと、平和の尊さを感じて、家族や友人とも共有していただけたら嬉しいです。」

召集令状 国民兵等を集める通知書

戦争が激しくなると、男性に召集令状が送られ、街や村には青年男性が殆どいなくなった。



「実物」だから伝わる

続いて、所長の北川雄司さんに話を伺った。

「滋賀県には、原爆のような特別な体験は在りません。しかし、戦争は県民全体に関わることでした。滋賀県には多くの軍事施設・工場があり、軍事品が作られていました。捕虜の収容施設もありました。この祈念館に、特別な物はありません。でも、実物の赤紙があります。これは、本来なら回収されていた貴重なものです。戦闘機のレプリカなんかを展示すれば、もっと来てもらえるかもしれない。で

も、きれいなレプリカよりも実物を見て感じて欲しい。実物だから伝わるものがある。そう考えています。」

来て知ってほしい

「まずはここに来てほしい」地元であったことを知ってほしい——今回お話を伺った北川所長、日高学芸員の思いは共通していた。知らなかった、行ったことがないという職員も多いだろう。ぜひ一度、ここに足を運んでみてほしい。県民が体験した、次代に語り継がなければならぬ過去の記憶が、ここにはある。

国民学校 戦時体制の 初等教育

戦況の悪化に伴い、授業が少なくなり、食糧増産や勤労奉仕に動員された。



滋賀県平和祈念館

住所 滋賀県東近江市下中野町431番地
入館料 無料
開館時間 午前9時30分～午後5時
休館日 月・火(祝日除く)
駐車場 50台(無料)
アクセス 名神八日市ICから車で約10分



日高昭子さん 滋賀県平和祈 念館学芸員

展示品収集・企画展示等を担当している。

